



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル栽培	○			○		○	○					
露地栽培		○		○		○	○					
高冷地抑制栽培			○		○		○					

○ 種まき    ● 植えつけ    ○ トンネル被覆    ● 収穫



### ミニトマト (ナス科トマト属)

スキーマのゲレンデに初級者・中級者・上級者向けがあるのと同様に、家庭菜園にも難易度があります。大玉トマトは上級者向けです。

トマトの原産地は強日照で乾燥した中南米のアンデス山麓です。日本では弱日照で多湿の梅雨があります。アマチュアでは梅雨を越すのが難しいです。プロの農家でも雨よけやビニールハウスで栽培をして多湿を防ぎます。

約30年前、国内にミニトマトが流通するようになりました。ミニトマトは大玉トマトと比べ格段に栽培しやすいので、家庭菜園でも普及しました。ミニトマトは初級者・中級者向けで、日当たりと風通しが良ければバランダでも栽培できます。

トマトの種まきは生育温度の確保が難しい2月なので、暖かくなってから苗を買い



求めると良いでしょう。苗の早植えは根付さしにくく、枯れることもあります。地温が上昇する5月に植え付けます。

トマトの栽培は支柱を立て、人間の背丈まで育てます。茎葉が大きくなるといこととは、根もそれだけ張らさなければなりません。培養土がたくさん入る10号(30cm)以上の鉢が必要です。

トマトの栽培で初級者が失敗しやすいのは、水やりと施肥と脇芽かきです。

水やりが多過ぎると、土の隙間が水で満たされ酸素欠乏になり根が傷み、ひどいと枯れてしまいます。水やりは朝や夕に土の表面が乾く程度にします。

肥料が多過ぎると、栄養成長(茎葉が伸びること)がいつまでも続き、生殖成長(花や実が付くこと)が始まらないことがあります。尻腐れなどの生理障害も出やすくなります。追肥は株の様子を見ながら少なめにします。

脇芽かきが遅れると、どれが主枝か側枝が分からなくなり、ジャングルのようになってしまいます。風通しが悪くなり、病気も発生しやすくなります。

真っ赤に完熟したミニトマトを楽しんでください。

JAグリーン  
津店が教える！  
ミニトマト  
栽培のポイント



JAグリーン津店 城子一

#### 〈苗植え〉

苗植えは「層間の気温が20〜30度」が目安になるので、住んでいる地域や天候に合わせて時期を調整してください。また、花のつく向きが全て同じなので、実を収穫しやすくするため、花芽が道側にくるように植え付けるといいでしょう。

#### 〈脇芽かき〉

脇芽と呼ばれる細い枝を取り除く作業です。余分な脇芽を摘み取ることで、実に十分な栄養を行き渡らせることができます。また、風通しがよくなり、病虫害の予防にも効果があります。

#### 〈病気の予防〉

##### ・尻腐れ病

果実のおしりの部分が黒色に陥没する病気です。カルシウムが不足すると起こりやすいので、土に石灰やカルシウムをまいて予防します。

##### ・おすすめ資材

野菜の尻ぐされ  
芯ぐされ防止剤



## オクラ



あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆

栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培 (暖地、中間地)			○		☒	🍷	🍷	🍷	🍷			
トンネル栽培 (高冷地、寒冷地)			○	☒	☒	🍷	🍷	🍷	🍷			
露地栽培 (高冷地、寒冷地)			○		☒	🍷	🍷	🍷	🍷			

○ 種まき ☒ 植えつけ ☒ トンネル被覆 🍷 収穫



### 栄養豊か、花も楽しめるオクラ

夏を越して晩秋まで果実（莢果）を取り続けることができ、フヨウに似た黄色い花は観賞用としてもめでられ、家庭菜園や庭先、プランター栽培共にお勧めです。アオイに似た花は観賞価値もあり、秋遅くまで咲き続けます。花も実もある重宝な野菜といえます。

独特の粘りがあり、夏のスタミナ補給にうってつけの野菜として知られています。食べ方は刻んで生のままでなく、ゆであたり炒めたり、サラダやてんぷら、みそ漬け、かす漬けにと、使い道が広いのも魅力です。

高温性で昼は25〜30度、夜は20〜23度が適温で、10度以下の低温では生育がまったく停止し、葉が黄変、落葉してしまいます。畑に植えたが一向に伸びず、落葉、枯死するという声がよく聞かれるのは、苗が低温に遭っていたり、植えた畑が寒過ぎたりした場合が多いのです。これを水不足と勘違いして水をやり過ぎると地温がさらに下がり、過湿となり立ち枯れ病が発生したりして失敗を助長してしまいます。

育て方のポイントは、苗は3号ポリ鉢に、一晩水に浸した種を4〜5粒まき、20度ぐらいに加温して育てるか、市販の苗を買って暖かい場所で再育苗し、十分暖かくなってから畑に植え出します。最近はずいぶん早くから店頭で苗が並びますが、買い急ぎは禁物、失敗して再び苗を求めなくてはならない状態

になってしまいます。

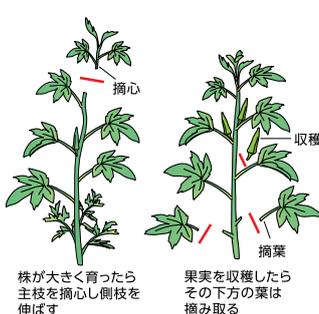
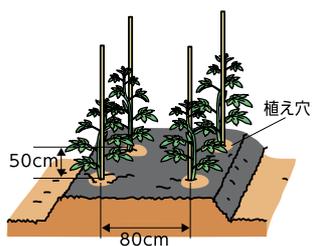
図のように黒色ポリフィルムをマルチし、地温を上げてから植えることをお勧めします。

オクラの育ちをよく見ると、初期には枝分

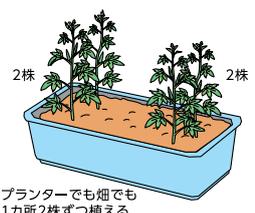
かれせず、1株当たりの花・果数は少ないので、それを補い、早期収量を高めるために、畑でもプランターでも、1カ所に2株ずつ植えることを勧めます。前半は葉もあまり込み合わないの、これでちょうど良いのです。盛んに育ち枝が伸びだしてきたら、主枝の上の方を摘除し側枝に日を当て、健全に伸びるようにします。

半月に1回、1株当たり小さじ1杯ぐらいの化成肥料を追肥します。近頃各地で葉を筒状に巻き食害するワタノメイガの発生が見られます。発見次第捕殺するか、適応殺虫剤を散布して防ぎましょう。

半月に1回、1株当たり小さじ1杯ぐらいの化成肥料を追肥します。



株が大きくなったら主枝を摘みし側枝を伸ばす  
果実を収穫したらその下方の葉は摘み取る



プランターでも畑でも1カ所2株ずつ植える

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

## 農業PR隊長カツラギ通信はホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信

みてね!



### カツラギ PHOTO GALLERY

